



園長のひとりごと

～秋です。1日5分の読み聞かせをしましょう。～

絵本は子どものための「心のご飯」です。

絵本には大切な想像力、知識、知恵や道徳、人の話をよく聞くなどの事が絵や文でわかりやすく書かれています。

子どもが「読んで 読んで」と何回も言うのは、絵本の楽しさがわかってきたからです。

その時読み聞かせをすると「人として大切な事柄」が子どもの心にしみいります。大変大切な時期です

上手に読めなくても声を大きくしたり小さくしたりして読んであげましょう。

すると、今、子どもが何を考え望んでいるかがよくわかるようになります。

そして親自身も今まで忘れていたことを再発見するかもしれません。

子どもと同じ物語の中に入り、話し合うことは楽しいもの…

大切な心のスキンシップです。

子どもの脳や感性を育む絵本は、子どもにとって豊かで深いメディアです。

先日、葉山町の100周年の記念式典に伺ったところ、記念事業としての作文コンクールの授賞式がありました。

その中で、審査委員特別賞を受賞したのは、明照幼稚園の卒園生でした。

講評は、“作文の内容についてその発想力が着目された”との事でした。作文はチャットやSNSと違って、創造性を巡らせ、独創的な精神活動です。

幼い時の絵本読みなどからも、そのような感性を育てていきたいものです。

2024年11月

園長 杉田雅美

